

地域創造学科 専門教育科目

<p>学是 (学則第1条の2)</p>	<p>本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>		
<p>経済学部の人材養成及び教育研究上の目的等 (学則第3条の3)</p>	<p>経済学部は、学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適応できる、幅広い職業人を養成することを目的とする。</p>	<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)</p>	<p>地域創造学科は、総合的な教養、地域経済・社会貢献分野での多様な専門知識を身につけ、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材を養成することを旨とする。この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。 【知識・技能】学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。 【思考力・判断力・表現力】実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。 【主体性・協働性】地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。</p>
	<p>【経済・経営学科】経済・経営学科は、経済学領域・経営学領域を広く学び、環境や消費者保護、企業倫理などの公共の視点に立ち、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の直接的な担い手となる人材を養成することを目的とする。</p> <p>【地域創造学科】地域創造学科は、経済・経営学の科目を基盤に、地域創造に関する専門的知識を学び、PBL(Problem-Based Learning)やアクティブラーニング型の授業を重視した教育課程により、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材の養成を目的とする。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)</p>	<p>地域創造学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。 【教育内容】1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、社会貢献コース、地域経済コースの2コースで構成し、地域の発展に寄与できる専門知識と実践力を養う科目を配置する。2. 専門教育科目は、「経済学関連科目」、「経営学関連科目」の基本知識および「社会貢献関連科目」などを中心に、地域社会の汎用的科目群を体系的に配置する。3. さらに専門教育科目では、社会貢献、地域経済などの領域で必要とされる能力の可視化として、資格取得科目を配置し、地域におけるさまざまな課題に対して実践的に取り組む科目を配置する。これらの科目を通して、国内外において活かせる「課題探求能力」、「課題解決能力」、「調査・分析能力」、「コミュニケーション能力」、「実践力」を育む。 【教育方法】1. PBLやアクティブラーニングを重視し、主体的な学びを高める教育手法を実施する。2. 地域と協働し、地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身に付けられるよう指導する。3. 演習においては個別の習熟度を見極め、きめ細やかな個別指導を実施する。 【教育評価】1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。2. 4年間の学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たしたことにより認定する。</p>

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(◎特に関係する ○関係する)			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	経営学概論	1・前	企業(営利経営)を中心に、政府・官庁・学校・病院・軍隊・労組・スポーツチーム・文化団体など様々な組織体(非営利経営)の「組織と管理」を研究対象とする経営学は、現代社会を支えるだけでなく、地域の振興とその担い手である人材の育成にも不可欠の学問である。本講義では現代の決定的制度である企業の社会的な重要性に注目し、企業経営を中心として経営学の基礎的な知識・理論を学んでいくが、そこでの学修は非営利経営にも応用可能である。経営学の習得は、地域創造学科での4年間の学びにとって有効な土台となるであろう。	①経済学部、地域創造学科の学生にとって必要な、経営学の基礎知識・理論を習得すること。②その過程で、「経営学の視点から、現代企業・現代社会を見る目」を養うこと。同時に「地域創造について考えられる」ようになること。様々な問題に対して、経営学によって「自分で、ものを考えられる」ようになること。③経営学の知識・理論を、地域創造学科での専門的な学修(PBLを含む)に活用できるようになること。	◎	◎	○
コア科目群	経済学概論	1・後	高校時代に「現代社会」や「政治・経済」を履修していても、経済学部に進学してですら経済または経済学に興味を示さない学生が少なくない。こうした状況を踏まえれば、経済学を学ぶには、先ず経済学特有の言葉に慣れ親しむことから始め、その後により現実の経済に則した題材を基に社会の経済現象から経済学のロジックを学んでいった方が効果的であろう。この学習プロセスを実現するために、調査、分析、比較、発表等といった側面から深く理解できるようにし、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニング手法も体得させていく計画である。	世の中の経済的な動きに深い関心を持ち、経済学特有の言葉とはどのようなものなのかを知り、おおよその経済現象を自分の言葉で説明できる。また、このコア科目の受講により、2年次以降の経済専門教育科目を理解するための橋渡しとすることができ、より高い次元の経済リテラシーを身に付けることができる。	◎	◎	○
コア科目群	統計学入門	2・前	統計学の基礎的、標準的手法について解説する。なるべく数式を用いず考え方を大切に講義にする。例題を多く取り入れ、コンピュータを使った演習を行う。	・統計学の基本的な知識を学び、考え方を理解できる。・データの種類とそれぞれの取り扱い方について理解できる。・コンピュータを用いて、データの処理、分析ができる。	◎	◎	○
コア科目群	統計学	2・後	近年ビッグデータの時代と言われていますが、そのデータをどのように活用するかに関する基本を学びます。また本講義を通じて実際にデータの問題解決に結びつけるための基礎となる理論を中心に学びます。得られたデータをどのように加工するか、どのような特徴・特性を持っているのかについて学習し、大量のデータから意味のある結論を導くための第一歩を踏み出しましょう。	1.データの種類とそれぞれの取り扱い方について理解できる2.データの平均・分散(標準偏差)を求め、データの特徴を掴むことができる3.記述統計と推測統計の違いを理解できる4.統計を用いて自分が分析したいことを想定できる	○	◎	

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コア科目群	マクロ経済学	2・後	マクロ経済学(macroconomics)は、個別の経済活動を集計した一國経済全体を扱うものである。マクロ経済学の対語は、経済を構成する個々の主体の行動を対象とするミクロ経済学である。マクロ経済学の誕生は、一般的に1936年に刊行されたイギリスの経済学者ジョン・メイナード・ケインズの著書『雇用・利子および貨幣の一般理論』に始まるとされる。この科目では、マクロ経済学の入門知識の基礎的内容を中心に学ぶ。	①マクロ経済学の考察対象や、政府と民間企業などの役割の違いを理解することができる。②マクロ経済統計の諸概念、たとえばGDP、デフレ・デフレギャップ、インフレ・インフレギャップ、利子率、失業率、名目値、実質値の違い、三面等価の原則、国民経済計算による諸統計の定義や概念、さらに景気動向を捉える指標について自分の言葉で説明できる。③マクロ経済学の中核をなすケインズ経済学が想定する需要と供給の関係を理解できる。④貨幣市場の需給均衡と利子率、GDPなどとの関係を理解し、自分の言葉で説明できる。	◎	◎	○
コア科目群	ミクロ経済学	2・後	ミクロ経済学は近代経済学の多くの科目の基盤となる学問であり、個々の生産者や消費者の意思決定から出発して、誰が何をどれだけ生産・消費するのかという資源配分の問題に対して市場価格のメカニズムが果たす役割を明らかにしようとするものである。この授業では市場を構成する家計や企業といった各経済主体の選択行動の基礎理論、市場経済の仕組みについて基礎的な知識、経済学的な考え方及び分析手法を習得することを目的としている。	・市場価格の決定プロセスについて説明することができる。・消費者の行動基準について説明することができる。・生産者の行動基準について説明することができる。	◎	◎	
コア科目群	日本経済史	2・後	この講義では、近世から近代の日本経済の概要を見た上で、産業や市場の展開を通じた地域創造について講義します。近世は土地に依拠する石高制にもとづく幕藩制的経済構造が成立し、大坂を中心とする市場構造が発展しました。しかしその後、各種産業が地方を中心に発展し、近代には産業革命・工業化が進んで、それに相応する地域が各地で創出されました。産業は資金、雇用、原材料賦存、市場などに応じ地域を変える、あるいは地域を創造する力を持っています。講義を通じ、産業の発展や衰退を通じた地域変革の歴史をみたいと思います。	・長期的観点から経済の歴史を知ることができる・土地に依拠した地域から産業に応じた地域の創造を知ることができる・将来社会人として仕事に携わる際の心構えを身につけることができる	◎	◎	◎
地域創造基礎科目群	KKU北九州学	1・前	これからのさまざまな取組みに対する心構えを学ぶ科目である。大学が立地している北九州市を取り巻く行政や自治体の取り組み、企業やビジネス活動、自然環境などについて理解を深めることを目的とし、地域の現状と課題について説明する。	1. 北九州市及び周辺自治体の取り組みについて説明ができる。2. 北九州市及び周辺自治体の企業やビジネス活動について説明ができる。3. 北九州市及び周辺自治体の自然環境や伝統文化などについて説明ができる。	◎	○	◎
地域創造基礎科目群	簿記入門	1・前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。	◎	◎	
地域創造基礎科目群	簿記入門演習	1・前	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。	◎	◎	

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
地域創造基礎科目群	初級簿記	1・後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿の作成について、説明することができる。	◎	◎	
地域創造基礎科目群	初級簿記演習	1・後	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿の作成について、説明することができる。	◎	◎	
地域創造基礎科目群	地域貢献概論	1・後	地域社会と地域貢献との関係を中心に、特にボランティアに焦点を当てた科目である。ボランティアに関する歴史の変遷を概観しながら、基礎的な知識と現状を説明するとともに、ボランティアの思想および社会的な背景と現状について説明する。	1. 地域社会と地域貢献との関係について説明することができる。2. 地域のボランティアに関する歴史的背景について説明ができる。3. 地域のボランティア活動の現状について説明ができる。	◎	○	◎
地域創造基礎科目群	地域のまちづくり入門	2・前	本授業では、まちづくりを担うための基本的な知識を理解することを目的としています。これまでは行政主体のハード整備からのまちづくりが進められてきましたが、今後はそのような取組みに加え、地域ごとの課題や魅力を踏まえたまちづくりに多様な主体が協力しながら取り組むことが大切になってきます。まちづくりの形は、地域によってさまざまですが、これからの持続可能なまちづくりをどう行うべきかを、主に北九州市やその周辺エリアでの取組事例を題材にしながら、地域が抱える現代的問題を探り上げて解決の方法を検討します。	①まちづくりを担うための基本的な知識を説明できる。②取組事例を参考にしながら、身近な地域を念頭に、地域創造のために何が必要であるのかを考える力を身に付ける。③地域の特徴と直面している課題を統計データ等から把握し、分析して人に伝えられるようになる。	◎	◎	○
地域創造基礎科目群	民法	2・前	この授業では、我々市民の日常生活における基本となる法律である民法について解説を行う。中でも特に民法総則、物権法、債権総則・契約法総論・契約法各論についての基礎的な知識の理解および習得をめざす。	・日常生活中に生じているさまざまな問題をどのように解決しているのかについて 民法的な観点から考えることのできるリーガルマインドを涵養する。・民法は会社法などの私法一般の出発点となるものであるから、今後、司法の学習 方法についても習得をすることができる。			
地域創造基礎科目群	人口学	2・前	少子化・高齢化が進む中での人口減少は、日本の経済や社会に多大な影響を及ぼすことが懸念されている。そのような状況下では、人口データの性質を把握し人口が経済や社会に及ぼす影響を客観的に分析することとその分析結果の意味を理解する能力が重要ではないかと思われる。本講義では、上記のような事を念頭に置いて、これまでの日本などの人口動態と経済成長の関係に焦点を絞り、総人口に占める働く人の割合が上昇し、経済成長が促進される「人口ボーナス期」を2005年頃に過ぎてしまった日本の取るべき対策を考える。	世界や日本、とりわけ九州・沖縄地域の人口動態等に深い関心を持ち、人口学特有の言葉とはどのようなものなのかを理解し、人口動態等の変化が経済や社会に及ぼしうる様々な影響を自分の言葉で説明できる。また、この科目の受講により、より高年次の科目である地域経済論、地方自治体の財政、社会保障論、経済政策などといった経済専門教育科目を理解するための橋渡しとすることができ、より高い次元の経済素養を身に付けることができる。	◎	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
地域創造基礎科目群	社会調査法	2・前	社会調査は社会生活に関連する事からについて理解するために重要な役割を果たす。同時に、現代社会においては多数の社会調査が存在し、調査の結果が身の回りにあふれている。そこで、それらの情報を自ら精査し、解釈する能力の重要性が一層高まっている。この授業では、さまざまな社会調査の手法や計画・実施の手順について解説することに加え、社会調査の目的や意義を理解し、調査から得られたデータを適切に解釈できる力を養うことを目的とする。	①社会調査の意義や、結果の解釈の重要性を理解することができる。②社会調査の一連の過程を理解し、目的に応じた手法を判断することができる。③調査票の作成について理解し、自ら設問を作成することができる。	◎		
地域創造基礎科目群	ビジネスとICT	2・後	近年、「ビックデータ」「パーソナルデータ」といった用語を目にする機会が増えてきている。今日の情報化社会の中で、経済活動の全体像の把握や効率的な経営を遂行していくためには、情報通信技術(ICT)を活用した統計学的知識やデータ分析の技術を欠かすことができない。本講義では、経済データを理解し、ICTを用いて加工編集し、それをもとにレジュメや論文を作成することができる力を身につけることを目標とする。	1.情報通信技術(ICT)についての概要を理解し、活用することができる。2.情報収集の多様な手段とその情報の信憑性の適切な判断が多角的視点をもつことができる。3.提示されたデータを正確に読み解き活用することができる。4.ビジネスにおける経済データをExcelで加工編集することができる。5.これらのデータを活用し、レジュメや論文を作成することができる。	◎	◎	○
地域創造基礎科目群	社会調査法演習	2・後	社会調査は社会生活に関連する事からについて理解するために重要な役割を果たす。そして、現代社会においては、多数の社会調査から得られた結果を精査し、解釈する能力が求められている。この授業では、社会調査の意義や結果の解釈の重要性を解説した後、学生が自らの問題意識や仮説にもとづき社会調査を計画・実施し、調査から得られたデータの統計分析を行い、その結果を適切に解釈し、公表するための能力を養うことを目的とする。	①自らの問題意識や仮説にもとづき、調査を計画することができる。②調査を実施し、得られたデータを統計的に分析することができる。③分析結果を適切に解釈して公表することができる。		◎	
コース科目群	財政学	2・後	財政は政府の経済活動を意味し、財政学は政府の経済活動を分析・研究する学問である。そこで、この授業では、市場メカニズムを前提としながら、政府の経済活動がどのような観点から行われ、国民とどのようにかかわっているかを紹介する。この授業は、国民経済と財政の関係から始まり、財政の目的及び公共支出について解説を行う。また、現在我が国が抱えている経済問題の中から、高齢化社会における財政の問題を世代間の公平の観点から取り上げる。	*財政のしくみを説明できる。*財政に関する新聞記事が理解できる。	○	◎	
コース科目群	地域のまちづくり	2・後	本授業では、「地域のまちづくり入門」を踏まえ、「まちづくり」という視点から、地域社会(とりわけ大学が位置する北九州市やその周辺の市町村)を見つめ、考えることを目的とする。これまで、どのような「まちづくり」が地域社会で実践されてきたのか、いかなる契機と形態で展開されてきたのか等を対象地域を選定し検討する。	①まちづくりについての基本的な知識を説明できる。①取組事例を参考にしながら、身近な地域を念頭に、地域創造のために何が必要であるのかを考える力を身に付ける。②地域の特徴を文献データ等を活用し、人に伝えられるようになる。	◎	◎	○
コース科目群	会社法	2・前	会社法は、企業形態の一つである会社に関する法律である。この会社法は、会社をめぐる様々な利害関係を調整し、法律関係を円滑に処理する役割を担っている。ニュースや新聞紙上でも、株式、株主総会、M&Aといった会社法に関する用語が頻りに登場するが、会社法は、ビジネスパーソンにとって大変身近な法律である。この授業では、株式会社を中心に、会社の設立や株式、機関、資金調達、組織再編等会社法の基礎を体系的に理解できるように具体的な事例を交えながら解説を行う。	本講義は、社会人となった時に知っておきたいビジネスルールとしての会社法の考え方を修得することを目標とします。具体的には次の通りです。①会社法の基本的仕組みを理解できる。②会社法の基本的問題に関して認識できる。③具体的な問題解決に必要な会社法の仕組みと解釈方法を修得できる。			

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
コース科目群	経済史	2・後	経済は、財やサービスが生産され、流通し、そして消費されるという点から見れば、最も基本的な人間の営為のひとつです。ゆえに経済史は、人間の経済を歴史的営為として叙述したものに他なりません。経済史の叙述は、社会や人がそうであるように多種多様です。一国を軸にしたものからグローバルな視点にもとづくもの、経営や企業家に関するものまで多様です。この講義では、経済史学に関するいくつかの方法を紹介した上で、具体的な叙述について解説したいと思います。	・物事を見て説明するには筋道を立てることが必要であることが理解できる・事実を情報として知覚し物の見方を通じ取捨選択する必要性の理解につながる・経済現象を長期的スパンからストーリーとして見ることができる・経済を通じて人類共通のシステムを理解することができる	◎	◎	○
実践科目群	地域創造実習Ⅰ 【地域の子育て支援】	1・後 期集中	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では「子育て支援」をテーマにした活動を行う予定です。特に1年次には、実践を通じて地域の課題を発見し、必要な基礎知識を習得することを目指します。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域課題に対する基礎的知識を習得する②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる③社会人として基本マナーを身に付けることができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅰ 【国際社会への貢献】	1・後 期集中	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域における地域創造実習では、本学の国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体等へ赴き、大学や地域の国際交流活動を通して、異なる文化背景を持つ人と交流することで、日本の文化と外国の文化がどのように異なるのかを考えます。また、特に1年次には、実践を通して、地域の方との交流、礼儀、礼節などの基本的なマナーについても学びます。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域課題に対する基礎的知識を習得する②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる③社会人として基本マナーを身に付けることができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅰ 【地域の学びの支援】	1・後 期集中	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の学び支援領域では、「市民協働に関する学びとその発展」をテーマにした活動を行う予定です。特に1年次には、実践を通じて地域の課題を発見し、必要な基礎知識を習得することを目指します。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域課題に対する基礎的知識を習得する②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる③社会人として基本マナーを身に付けることができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅰ 【まちづくりの推進】	1・後 期集中	「まちを「つくる」とはどういうことなのか。誰が、どこで、どのようにして、「まちづくり」を実践しているのか。地域にはいかなるステークホルダーがいるのか。彼ら彼女たちはどのように連携・協働しているのか。地域のニーズや課題とは具体的に何なのだろうか。本授業では、現地での学修(岡垣町の駅前イルミネーション整備事業)への参加を通じて、地域を「まちづくり」という視点から観察し、考えることを目的とする。財務省、金融庁、(内閣府派遣)地方創生統括官の経験(西山)を活かした授業展開を行う。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域課題に対する基礎的知識を習得する②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる③社会人として基本マナーを身に付けることができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅱ 【地域の子育て支援】	1・後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では「子育て支援」をテーマにした活動を行う予定です。特に1年次には、実践を通じて地域の課題を発見し、必要な基礎知識を習得することを目指します。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域課題に対する基礎的知識を習得する②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる③社会人として基本マナーを身に付けることができる	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	地域創造実習Ⅱ 【国際社会への貢献】	1・後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域における地域創造実習では、前期に引き続き、本学の国際交流・留学生支援室及び地域の国際交流に関わる団体等と関わりを持ち、大学や地域の国際交流活動を通して、異なる文化背景を持つ人と交流します。その交流を通じて、多文化の中で共生することは、どのようなメリット・デメリットが発生するのかを考えます。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域課題に対する基礎的知識を習得する②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる③社会人として基本マナーを身に付けることができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅱ 【地域の学びの支援】	1・後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の学び支援領域では、「市民協働に関する学びとその発展」をテーマにした活動を行う予定です。特に1年次には、実践を通じて地域の課題を発見し、必要な基礎知識を習得することを目指します。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域課題に対する基礎的知識を習得する②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる③社会人として基本マナーを身に付けることができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅱ 【まちづくりの推進】	1・後	本授業では、地域から提示された課題を、解決する学修を通して、まちづくりの意味と意義を考察することを目的とする。地域にはどのような課題、問題があるのか、それはどのように解決されるのか。課題への解を提示するために、現地での学修(岡垣町の駅前イルミネーション整備事業)への参加を通じて、地域についての理解を深め、まちづくりという視点から地域を分析する。財務省、金融庁、(内閣府派遣)地方創生統括官の経験(西山)を活かした授業展開を行う。	①仲間と協力して地域の活動に取り組むことにより、地域課題に対する基礎的知識を習得する②地域や社会の一員として他者と協働することにより、年齢の異なる人たちとコミュニケーションができる③社会人として基本マナーを身に付けることができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅲ 【地域の子育て支援】	2・後 期中	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では「子育て支援」をテーマにした活動を行う予定です。1年次では基本的知識の習得(地域課題の発見)、2年次では実践的な活動(課題解決に向けた提案)と、各ステージにおいて目標をもって取り組んでいきます。	①地域活動に必要な基本的スキルを身につける。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅲ 【国際社会への貢献】	2・後 期中	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域では、1年次での体験を活かし、国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体において、主体的に企画や運営を行います。また、多様な文化背景を持つ外国人と積極的に関わるために必要なスキルが何なのかを考えます。	①地域活動に必要な基本的スキルを身につける。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅲ 【地域の学びの支援】	2・後 期中	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の学び支援領域では、「市民協働に関する学びとその発展」をテーマにした活動を行う予定です。1年次では基本的知識の習得(地域課題の発見)、2年次では実践的な活動(課題解決に向けた提案)と、各ステージにおいて目標をもって取り組んでいきます。	①地域活動に必要な基本的スキルを身につける。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム					卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕		
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
実践科目群	地域創造実習Ⅲ 【まちづくりの推進】	2・後 期集中	「まち」を「つくる」とはどういうことなのか。誰が、どこで、どのようにして、「まちづくり」を実践しているのか。地域にはいかなるステークホルダーがいるのか。彼ら・彼女たちはどのように連携・協働しているのか。地域のニーズや課題とは具体的に何なのだろうか。本授業では、現地での学修(岡垣町の駅前イルミネーション整備事業)への参加を通じて、地域を「まちづくり」という視点から観察し、考えることを目的とする。財務省、金融庁、(内閣府派遣)地方創生統括官の経験(西山)を活かした授業展開を行う。	①地域活動に必要な基本的スキルを身につける。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ 【地域の子育て支援】	2・後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の子育て支援領域では「子育て支援」をテーマにした活動を行う予定です。1年次では基本的知識の習得(地域課題の発見)、2年次では実践的な活動(課題解決に向けた提案)と、各ステージにおいて目標をもって取り組んでいきます。	①地域活動に必要な基本的スキルを身につける。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ 【国際社会への貢献】	2・後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。国際社会への貢献領域では、1年次の体験を基に、国際交流・留学生支援室や地域の国際交流に関わる団体へ赴き、積極的に国際交流事業の企画や運営に取り組みます。また、国際交流活動を通じて、多様な文化背景を持つ外国人との交流を深め、外国人と協働する方法を学びます。	①地域活動に必要な基本的スキルを身につける。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ 【地域の学びの支援】	2・後	本実習では、北九州市及び近隣市町村をフィールドとし、行政、企業やボランティア団体など多様な団体と共に、地域活性化に取り組みます。地域の学び支援領域では、「市民協働に関する学びとその発展」をテーマにした活動を行う予定です。1年次では基本的知識の習得(地域課題の発見)、2年次では実践的な活動(課題解決に向けた提案)と、各ステージにおいて目標をもって取り組んでいきます。	①地域活動に必要な基本的スキルを身につける。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域創造実習Ⅳ 【まちづくりの推進】	2・後	本授業では、地域から提示された課題を、解決する学修を通して、まちづくりの意味と意義を考察することを目的とする。地域にはどのような課題、問題があるのか、それはどのように解決されるのか。課題への解を提示するために、現地での学修(岡垣町の駅前イルミネーション整備事業)への参加を通じて、地域についての理解を深め、まちづくりという視点から地域を分析する。財務省、金融庁、(内閣府派遣)地方創生統括官の経験(西山)を活かした授業展開を行う。	①地域活動に必要な基本的スキルを身につける。②地域が抱える課題を正確に把握し、解決策を提案することができる。③地域で実施されている活動に積極的に取り組むことができる。④リーダーシップを発揮して、目標に向けた協力的な活動を展開することができる。	○	◎	◎
実践科目群	地域ワークショップ 【北九州市連携授業:折尾まちづくり】	2-4・ 通年集中	折尾駅周辺の高架工事等により、まちの姿が大きく変化し、高架下および折尾駅周辺の賑わいづくりや地域全体の活性化への期待が高まっている。折尾地区整備事業の進捗に合わせて、新しい図書館を含めた多世代交流拠点の整備が求められている。今回、北九州市との連携により、市職員の視点でまちづくりを体験し、再来年開設予定の多目的施設のコンセプトやネーミングを考え、北九州市長の前でプレゼンを行う。これらにより、地域の課題解決能力を培い、まちづくりに関する知見を深めることを目的とする。	①地域に関する知識を身につける。②課題を発見し、解決する力を身につける。③他者に自分の考え・意見を論理的に表現する力を身につける。④まちづくりの担い手として、主体的に考え、責任を持って行動する力を身につける。⑤まちづくりの担い手として、地域の人びとと協働し、まちづくりに貢献できるようにする。	○	◎	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
実践科目群	職業研修A	2-4・前期集中	マナー講座、事前指導を受けた後、1週間程度を目安に、企業または地方公共団体のインターンシップに行く。そのうえで、視野を広くすることを念頭において、大学生活の過ごし方を考える。実習後は、報告書の作成、振り返りを行ったうえで、実習先の方およびコースの学科の専任教員等が出席する報告会において実習内容を発表する。	インターンシップの経験を通じて、業界、働くことの意味、厳しさ、やりがいを理解することができる。自分の適性を理解して、企業で求められている能力を身につけることができる。仕事内容だけではなく、社会人としての社会での過ごし方も理解できるようになる。	○	◎	◎
実践科目群	職業研修B	2-4・後期集中	「職業研修A」で学んだことをもとにして、企業または地方公共団体のインターンシップを長期間行う。期間は1ヶ月未満とする。実習前は事前指導を受け、実習後は報告書の作成、振り返りを行ったうえで、実習先の方およびコースの学科の専任教員等が出席する報告会において実習内容を発表する。	インターンシップの経験を通じて、業界、働くことの意味、厳しさ、やりがいを理解することができる。自分の適性を理解して、企業で求められている能力を身につけることができる。社会人と積極的にコミュニケーションをはかり、社会勉強をすることができる。課題解決、実務経験を通じて、実習先に貢献できるような成果を出すことができる。	◎	◎	◎
実践科目群	チャレンジA【旅行業務取扱管理者①】	2・前期前半	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である旅行業法(旅行業法及びこれに基づく命令)および国内の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身につけていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行業務を行う上で守るべきルールが定められている法律を修得することができる。・国内の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジA【TOEIC①】	2・前期前半	本科目は、TOEIC Reading and Listeningテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識およびノウハウを身につける。具体的には、400点-550点を獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組みます。	1. TOEICにおいて400-550点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて400-550点レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に対応することができる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジA【簿記2級】	2・前期前半	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。	◎	◎	
実践科目群	チャレンジB【旅行業務取扱管理者②】	2・後期後半	当講義は、旅行業務取扱管理者試験(国内・総合)の重要科目である約款および海外の観光資源について、国家試験に合格するために必要な知識およびノウハウを身に付けていく。また、当講義を通じて職業意識も身に付け、自らの将来(就職)を考える機会にする。	・旅行者等と旅行者との約束事(約款)を修得することができる。・海外の観光資源では、各観光名所をはじめ幅広い知識を身に付けることができる。・国家試験に合格するために必要な基礎力から応用力まで身に付けることができる。・観光業界の現状を踏まえ、将来性および課題をはじめ自らの意見を論述できるようになる。	○	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
実践科目群	チャレンジB【TOEIC②】	2・前期後半	本科目は、TOEIC Reading and Listeningテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識およびノウハウを身につける。具体的には、450点～600点を獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組みます。	1. TOEICにおいて450～600レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて450～600レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に対応することができる。4. TOEIC IPテストを受験し、450点～600点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジB【簿記2級】	2・前期後半	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿について説明することができる。④税効果会計・合併・本店会計・連結会計について説明することができる。	◎	◎	
実践科目群	チャレンジC【FP】	2・後期前半	本科目は、ファイナンシャルプランニング技能検定3級の取得を目指す学生のために開講する。なお、本科目は少人数制による授業を行うため、受講人数の制限がなされる場合がある。また、この授業ではクォータ制をとり、資格取得時期に合わせた開講をし、1週間のうちに2回講義を行うことになる。1回はテキストの理解が中心で、もう1回は実戦問題集による理解度のチェックが中心である。	FP3級はお金の知識の入門に最適で、比較的パスしやすい国家資格であるため、受講者は毎年1月下旬に行われる予定の検定試験に合格することを到達目標とする。	◎	◎	○
実践科目群	チャレンジC【TOEIC③】	2・後期前半	本科目は、TOEIC Reading and Listeningテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識およびノウハウを身につける。具体的には、500点～650点を獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組みます。	1. TOEICにおいて500～650レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて500～650レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に対応することができる。4. TOEIC L&R公開テストを受験し、500点～650点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジC【簿記2級】	2・後期前半	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿について説明することができる。④税効果会計・合併・本店会計・連結会計について説明することができる。	◎	◎	
実践科目群	チャレンジD【ITパスポート】	2・後期後半	本科目は、情報処理技術者試験(ITパスポート検定)の取得を目指す学生のために開講する。なお、本科目は少人数制による授業を行うため、受講人数の制限がなされる場合がある。また、この授業ではクォータ制をとり、資格取得時期に合わせた開講をし、1週間のうちに2回講義を行うことになる。受講者の積極的な予修・復修が必要不可欠である。ITパスポート検定は、日本の国家試験として初めてCBT方式を導入している。CBT(Computer Based Testing)とは、コンピュータを利用して実施する試験方式のことを指す。	ITパスポート検定は情報知識の入門に最適で、パスしやすい国家資格であるため、受講者は自分のペースに合わせて勉強し、随時受けられる検定試験に合格することを到達目標とする。なお、当該検定試験の出題範囲は広いため、受講者は合格を目指して、ネットワークや情報セキュリティといった理系の知識だけでなく、マネジメントなど文系の知識にも関心を持ち、事前の予修・事後の復修の習慣化を身に付けることが期待される。	◎	◎	○

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体性・協働性】
実践科目群	チャレンジD【TOEIC④】	2・後 期後 半	本科目は、TOEIC Reading and Listeningテストにおいて、高得点を取得するために必要な知識およびノウハウを身につける。具体的には、550点ー700点を獲得するためのリーディング能力、リスニング能力を身につけるために、必要な語彙、文法事項の説明や、ディクテーション、実践問題に取り組みます。	1. TOEICにおいて550-700点レベルの語彙、文法知識、読解力を身につけることができる。2. TOEICにおいて550-700点レベルのリスニング能力を身につけることができる。3. TOEICの全パートの問題形式を知り、実際に対応することができる。4. TOEIC IPテストを受験し、550点-700点を取得できる。	○	◎	○
実践科目群	チャレンジD【簿記2級】	2・後 期後 半	簿記は、世界共通のものであり、企業のみならず、非営利団体、国・地方公共団体なども含めたあらゆる経済主体が行う経済活動を記録する仕組みとして役立てられている。またそれらの記録は、損益計算書や貸借対照表といった財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。簿記はビジネスパーソンの必須スキルとして挙げられている。このことから授業においては、ビジネスパーソンの必須スキルである簿記の基礎を学び、簿記の仕組みを理解することを目的としている。	①簿記一巡について、説明することができる。②学修範囲の仕訳について、説明することができる。③各種帳簿について説明することができる。④税効果会計・合併・本店会計・連結会計について説明することができる。	◎	◎	
実践科目群	海外地域学研修	2-4・ 後期 集中	海外ボランティア活動を円滑に行う上で、英語等の外国語に関するスキル及び対人コミュニケーション能力は、必須の能力となる。そのため、本研修では実際に海外の教育機関等に赴き、海外のボランティア活動やSDGs活動に取り組むことで、英語等のスキル及び対人コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、協定校のGUTCが提供するNGO法人との共同プログラムに参加し、SDGs活動とそれに関連した語学学習を行う。	1. NGO法人のSDGs活動について知る。2. SDGsの活動を行う上で必要な英語の知識と対人コミュニケーション能力を身につける。	○	◎	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅠ	1・前	まず、地域創造学科での学びの全体像や地域との関わりを重視した学びの意義について理解する。また、地域に根差し、人となりが信頼関係を築くことの大切さや地域における経済や社会の諸問題の解決を地域の方々と共に考え、解決するための方法を工夫する。さらに、地域創造実習Ⅰで学ぶ内容とも関連づけながら、「まちづくりの推進」、「国際社会への貢献」、「地域の子育て支援」、「地域の学びの支援」の領域についての理解も深めていく。以上のほか、プレゼンテーションやレポート作成をも適宜取り入れながら授業を展開する。	①大学でのあるべき学び方と正しい態度を身に付けることができる。②北九州地域の経済や社会の歴史や現状および課題をおおむね理解できる。③仲間づくりの意義や方法を理解し、グループ・ワークに積極的に参加できる。④自分及び所属するグループのメンバーの考えをまとめてプレゼンテーションができる。⑤将来の進級・就職などを見据えてレポート作成方法の基礎を身に付けることができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅡ	1・後	地域創造ゼミナールⅠで学習した内容をベースに、地域の経済や社会で日々発生する諸問題について、様々な知識や経験を学びながら解決方法を探求していく。具体的には、地域創造実習Ⅰ・Ⅱを通して、学生諸君が各々参加した「まちづくりの推進」「国際社会への貢献」「地域の子育て支援」「地域の学びの支援」の4つの領域のいずれかまたは複数の領域の現状や特徴、課題等について、発表やディスカッションなどを通じて共有するとともに、プレゼンテーションおよびレポートといった形式で学びの成果を報告する力が身につくように指導する。	①北九州地域の経済や社会の現状および課題を理解し、独自の見解を説明できる。②グループワークに積極的に参加し、自分の考え及びその理由を述べることができる。③自分の考えをパワーポイントなどにまとめてプレゼンテーションをすることができる。④教員やほかの学生のプレゼンテーションをよく聞き、核心を突いた的確な質問ができる。⑤将来の進級・就職などを見据えてレポート作成のテクニックを身に付けることができる。	◎	○	◎
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅢ	2・前	地域創造ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだ内容を踏まえて、地域の経済や社会の諸問題について、様々な知識や経験を学習しながら解決方法を模索する。具体的には、これまでの地域創造実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して学生諸君が参加した「まちづくりの推進」「国際社会への貢献」「地域の子育て支援」「地域の学びの支援」の4つの領域のいずれかまたは複数の領域の現状や特徴、課題などについて、報告やディスカッションなどを通じて情報を共有しながら、プレゼンテーション及びレポートといった形式で学びの成果を効果的に報告できる力を養育する。	①北九州地域の経済や社会の現状と課題の背景を理解し、自分なりの解決方法を提示できる。②グループワークに積極的に参加し、自分の考え及びその理由を論理的に述べる事ができる。③自分の考えをパワーポイントなどに簡潔にまとめ、効果的なプレゼンテーションができる。④教員やほかの学生などのプレゼンテーションを理解し、分からない箇所等を質問できる。⑤将来の進級・就職などを見据えて比較的高度なレポート作成テクニックを身に付けられる。	◎	○	◎

経済学部のカリキュラム				卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次・学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(経済学)として相応しい教養を身につけ、経済学・経営学および社会貢献・地域経済に関する学問の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見だし、自ら課題を解決する力、論理的に表現できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 地域社会の振興と発展に寄与できる担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者と協働し、社会貢献できる力を身につけている。
ゼミナール科目群	地域創造ゼミナールⅣ	2・後	地域創造ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲで学んだ内容をもとに、地域の経済や社会の課題について、様々な知識や経験を生かしながら解決策を提案する。具体的には、これまでの地域創造実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを通して学生諸君が参加した「まちづくりの推進」「国際社会への貢献」「地域の子育て支援」「地域の学びの支援」の4つの領域のいずれかまたは複数の領域の現状や特徴、課題などについて、報告やディスカッションなどを通じて切磋琢磨をしながら、プレゼンテーション及びレポートといった形式で学びの成果を的確に伝える力を高めていく。	①北九州地域の経済や社会の様々な課題について、自分なりの解決策を論理的に提示できる。②グループワークに積極的に参加し、自分の考え及びその理由を効果的に伝える事ができる。③自分の意見や考え方をパワーポイントにまとめ、大勢の前でプレゼンテーションができる。④教員やほかの学生などのプレゼンテーションを理解し、的を射た的確なコメントができる。⑤将来の進級・就職などを見据えて説得力のあるレポート作成テクニックを身に付けられる。	◎	○	◎